

平成 29 年度学校評価

平成 29 年度の教育活動等に対する学校評価書

平成 30 年 3 月 31 日

学校法人 松城幼稚園 園長 大高 今日子
学校法人 松城幼稚園 学校関係者評価委員会長 村木 佳世子

1. 幼稚園の教育目標

- ・人と人との関わりを通して、お互いを思いやり成長させていく力を養う。
- ・日常の生活での出来事・恵みに喜び、感謝する気持ちを育てる。
- ・自分の思いを相手にしっかり伝え、行動できるよう導いていく。

2. 本年度の重点目標(学校評価の具体的な目標や計画)

- 1.途中であきらめず、最後までがんばる力を身に付ける。
- 2.自分のことだけでなく、相手に対する思いやりを育てていく。
- 3.子どもひとりひとりの個性を大事にしていきながら、苦手な物へのチャレンジも安心してやり遂げていけるよう導いていく。

3. 自己評価結果とそれに対する学校関係者評価結果

(※評価点は、A{十分に成果があった}・B{成果があった}・C{少し成果があった}・D{成果がなかった})

評価の対象	評価項目	自己評価		評価委員会	
		点	幼稚園としての反省と改善策	点	意見
①教育内容	教育理念や教育方針の確立	A	本年度のキリスト教保育における年主題「愛されて育つ」という目標のもとに一年子ども達と共に過ごし、教師ひとりひとりが子どもたちの思いをしっかり受け止めることによって、子ども同志の中にも互いに思いやる心が育てていけたのではないかと感じた。	A	キリスト教理念に基づいた保育がされている。日々のお祈りで感謝を忘れず、季節の行事に加え、キリスト教に基づく行事も行われており、充実した教育内容が実施されている。
	教職員体制の充実と人事管理				
	教育環境の構成の工夫				
	研修や研究の取り組み				

②保育の 計画性 幼児への 対応	保育と計画 の評価・反省	B	<p>・子ども達の成長のあり方ニーズに合った保育内容を考える一方、保育内容、行事内容変更 に保護者からはいろいろな声も出ていたが、教師達は子ども達全体をしっかりと見守り話し合う中で行っていく保育であることを、これからも保護者に理解してもらえよう計画していく。</p> <p>・体力作りには、これからも大きな課題があるが、カリキュラムにしっかり盛り込み無理のないよう行っていく。</p>	B	<p>園行事の充実ぶりに共感する保護者が多い一方で、それを負担に感じる保護者もいるなど、多様な考えが混在しているため、保育の変更には難しさを感じる。</p> <p>ドッジボールでは、体力作りだけでなくみんなで協力しチームがひとつになることができ勝利の感動を味わうことができた。</p> <p>坂道のマラソンや、お城公園散歩も今後も継続して欲しい。</p>
	健康と安全 への配慮や 言葉がけ				
	幼児への見 とりと理解				
	遊びの援助 者としての関 わり方				
③教師として の資質・能 力・適正等	教師としての 能力・良識 の備え	A	<p>・保育生活の中で担任が途中で替わるという事があったが、新しい教師そして副担任との連携がしっかり出来、子どもたちに対する保育への目もしっかり行き届いていたため最後まで子どもたちを見守る事が出来た。</p> <p>・保育の知識を深め、挑戦し一日を喜びで始め、喜びで終われるよう心掛けてきた。</p>	B	<p>どの教師も穏やかで、すべての子供・保護者に対して親しみをもって接する姿勢が感じられる。</p> <p>おたのしみ会では、各クラスの子供の個性を活かした指導がされ、子供の衣装も工夫がされていた。</p>
	教師としての 業務と責任				
	組織の一員 としての在り 方の意識				
	専門的・社 会的知識の 研修と意欲				
④保護者へ の対応	適確な情報 発信と受信 をしているか	A	<p>日常からの保護者の相談、意見などにもしっかり答え、大きな場ではアンケート、懇談会での全体の意見に園長、担任の個人だけの中で受け止めるのではなく教師会を通して話し合いをしていった。</p>	B	<p>普段から保護者とのコミュニケーションが取りやすい環境にある。</p> <p>クラス毎の園長との懇談会では、保護者の意見を取り入れようとする姿勢が感じられた。</p> <p>園との距離が近く、いろいろな保護者の意見を耳にする中で、適切な判断をしていただきたい。</p>
	園長に報告 し、相談して いるか				
	守秘義務を 守っているか				
	礼節・良識を もって対応し ているか				

⑤地域の幼児教育センターとしての役割	地域環境や人々との関わりと理解	A	<p>・今年も4ヶ園を招いてのどっちボール大会を行い、その後は昼食を食べたりと、普段経験できないようなふれあいに関わりを持つことが出来た。</p> <p>・大きなお兄さん、お姉さん(中学生、高校生)との保育体験、自習でも、兄弟との関わりが少ない今の子ども達にとっては楽しい経験が出来た。</p>	A	浜松城公園、中央図書館など身近な施設を利用し地域の人々との交流を図ることで子供が社会を理解しやすい環境にあった。
	小学校との連携と保育園との交流				中高生の保育体験を積極的に請負い年齢の違う人との関わりを持つことで普段できない遊びを体験できた。
	地域との交流・配慮の在り方				
	未就園児に対する支援				まつぼっくりの会は毎回充実した内容が開催されている。
⑥環境安全管理	危機管理対策	B	<p>・園庭環境整備、大型遊具の点検、大きくなった松の木にカラスが巣を作るようになったため、大きくなりすぎた松の木、イチョウなどの樹木の伐採なども行った。</p> <p>・防災対策は月に決まって訓練を行っているが、今年は年長のみ起震車を使っての体験も試み防災への意識を親子で高めてもらった。</p>	B	隣接する学校の工事も終わり、工事車両の出入りはほとんどなく、大きな問題はなかった。
	施設・設備・園児に対する安全対策				年長対象に、起震車で地震の揺れを親子で体験させてもらい、防災の意識を高めることができた。(年少、年中見学)
	衛生に対する安全管理				夏のお弁当を給食室で管理するなど衛生面は積極的に行われている。
	防災対策が整っているか				
⑦預かり保育・給食・補助活動	預かり保育の内容の充実度	B	<p>・仕事や家庭の用事などで保護者の希望に即した預かり保育をした、朝の預かり、年少の4月からの預かりもした。</p> <p>・外部からの週2回の体操教室、週1回のサッカー教室を行っているのだが、外部からの園児も使うため、マナー面での課題が残った。</p>	B	預かり保育は、仕事をしている人に限らず臨機応変に対応されている。
	給食の衛生管理				給食は、保護者が手伝うことがマイナスイメージになりやすいので、温かくおいしい給食が食べられる事など手作りの良さをもっと発信できたらと思う。
	時間外活動への対応(体育教室・サッカー教室)				時間外活動は、専門的な指導を受けられることで、子供達の運動能力を高めることにも役立っている。

⑨ 外部アンケート	結果を踏まえた課題の検証	B	・保護者ならびに外部の方々から多くの意見を聞き、これからも子ども達にとって大切な事など、より良い保育をしていくための必要性があるものには、改善に努めていく。しかしこの松城幼稚園本来のキリスト教保育からのカリキュラム、行事のあり方には、これからも保護者の理解をしてもらえよう話しをしていく。	B	どの先生にも、いつでも意見や要望を伝えやすい環境は、松城幼稚園の良さである。 懇談会で述べた意見は、文書にするなどすべての保護者に情報が行き渡るとよい。 保護者の意見に伝えることが難しい場合、その理由と説明を明確にして伝える必要があると感じる。
	保護者の意見・要望の集約と対応				
	情報発信と共通理解の在り方				
	適正な判断と改善努力				

評価目標の取り組み結果及び反省

- ・今年度は理事長、教師において2度の交代があり、保護者にも理解していただき、そして一番心配した子ども達においては、次に担任を任せられた教師とそれをサポートしてくれた副担任の連携のよさで、子どもたちが最後まで教師との関わりが上手だったことで、良い保育が出来た。
- ・年度後半からは2才児預かり保育も行い、今の少子化で園児が減少してこの園にとっては良い方向に向かっているようです。
- ・これからも教師、保護者、子どもたちのため、大切な物を見失う事なくキリスト教保育を大切にしたいと願っています。

学校関係者評価委員会からのコメント(今後の課題等)

キリスト教精神に基づき、感謝や思いやりの心を持つ保育、季節ごとの遊びや行事を取り入れた保育がされている。市の中心にありながら、豊かな自然環境の中で先生方のきめ細かい指導のもと園児はのびのびと過ごすことができる。また、小規模園ならではの取組として保護者も行事に関わることで親子共に成長を感じられる。

仕事をする保護者が多くなったことから、行事の見直しの声もあるが変更に関しては十分な検討が必要である。適切な情報発信と話し合いのうえで、園が必要性を判断し、保護者に理解を求めていくことが望ましい。伝統ある園の良さを失うことなく、時代にあった新しい教育も取り入れていく柔軟さが求められている。